

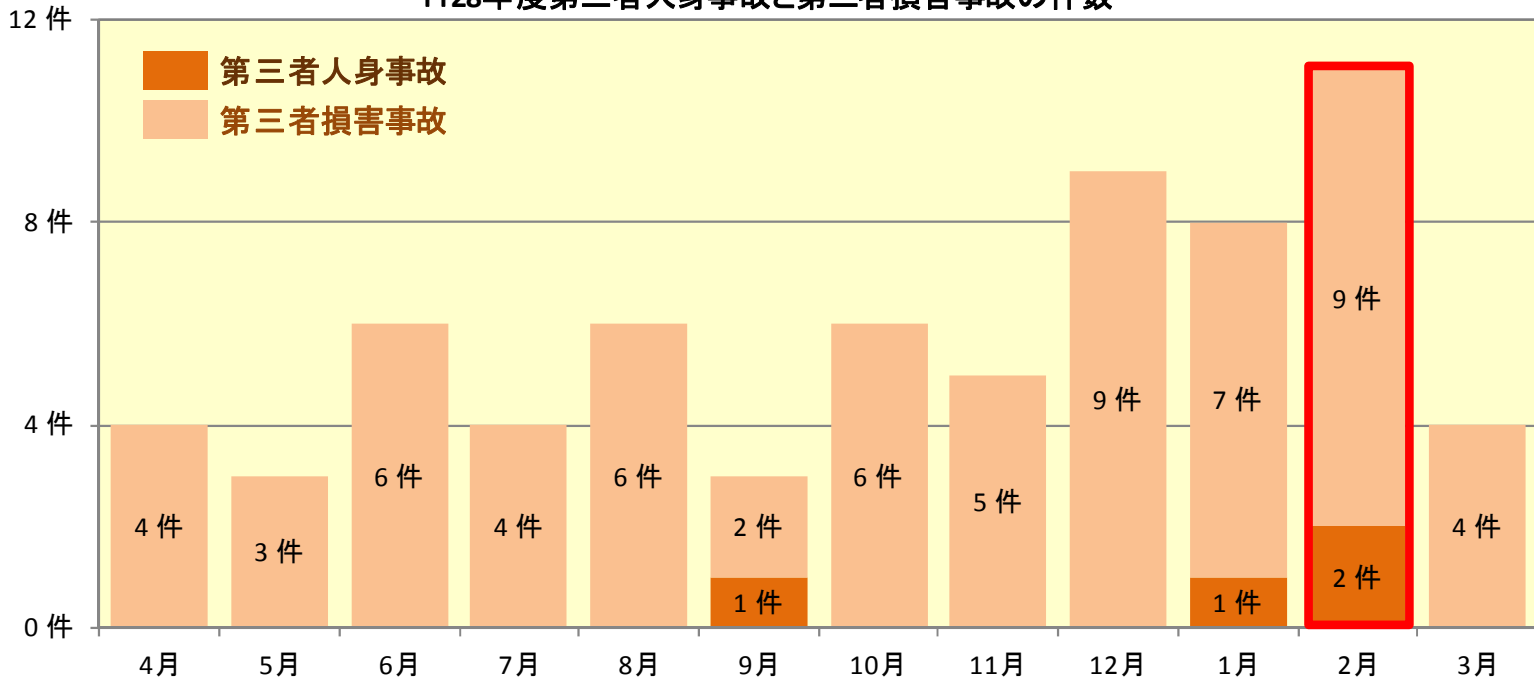
例年2月は事故が多発する傾向があります。 事故防止活動を強化しましょう。

下記のグラフの通り、2月には事故が多発する傾向にあります。年度末を迎え、さまざまな作業が輻輳しますが、今一度、現場及び周辺の点検と安全確認を確実に行いましょう。

H28年度重点対策項目事故の月別発生件数



H28年度第三者人身事故と第三者損害事故の件数



例年地下埋設物事故が多発する2月は特にご注意！

前頁のH28年度の統計で示したように、2月には地下埋設物事故も多発しています。事前調査と日々の作業の安全点検を徹底しましょう。

【確認不足による地下埋設物事故事例】

【事故概要】

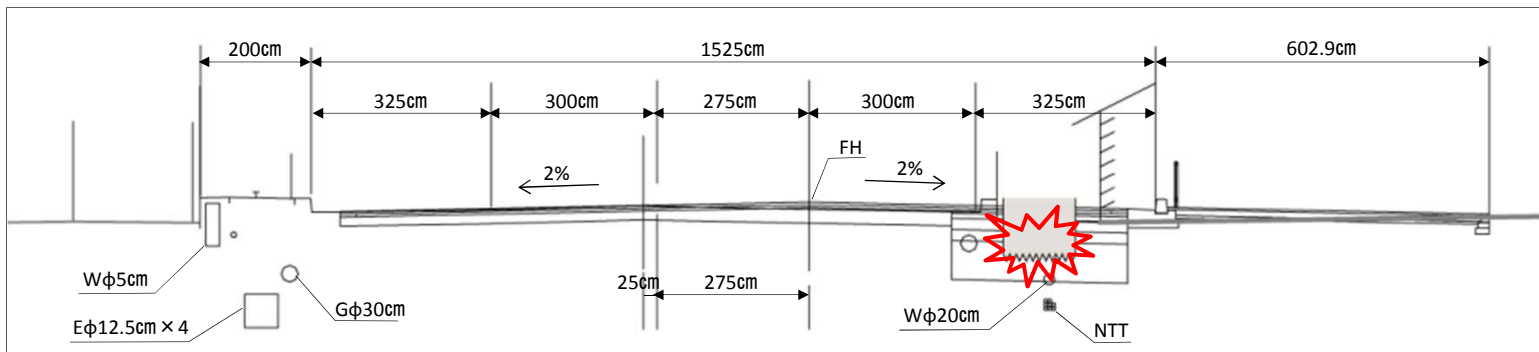
2018年1月10日事故発生。車道の拡幅に伴う交差点右折レーンの設置の工事のため、最終的に車道となる現況歩道部の埋設管(NTT)の確認を行った。土被り120cmにある埋設管を調査するため、深さ90cmまで掘削して掘削したがれき等をバックホウで除去した際、土被り70cmに埋設されていた引き込み管路の歩道用信号への配管・配線(1本)を切断し、復旧するまでの約30分間、車道信号が点滅、歩行者信号が消灯した。

【原因】

○ 公安委員会の埋設管に関する事前調査を行っていなかった。

【対策】

○ 試験掘作業には先行手掘確認の徹底を行う。



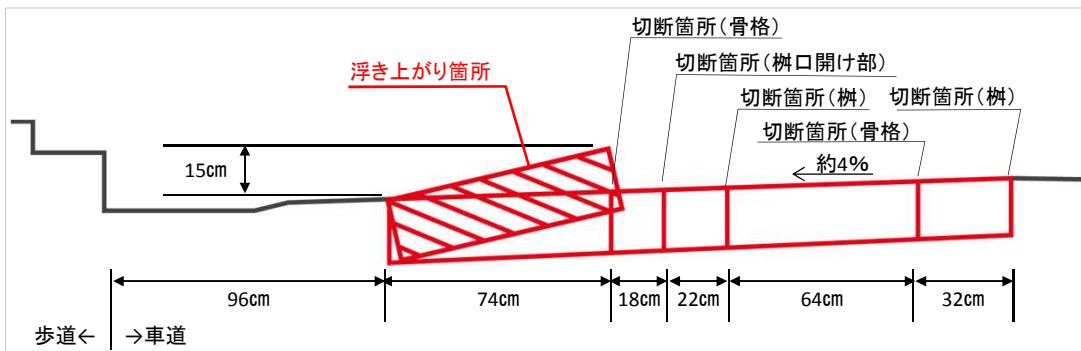
カッター切断後の舗装塊の浮き上がりにご注意！

【事故概要】

2017年10月22日午前8時頃、路面より15cm程度せり上がっていた舗装塊(縦72cm×幅18cm×厚20cm)に被害車両3台が接触し、車両タイヤ部を損傷。事故発生場所は約3週間前に電線共同溝工事の舗装版取壊しのためにカッター切断していた箇所であった。

【事故原因見解】

- 台風による工事順延等で舗装版切断後約3週間が経過しており、その間の降雨により切断溝に雨水が浸透したことが何らかの影響を及ぼしたものと想定されるが、原因の特定には至らなかった。
- 今回の事象は輪荷重による作用や骨材の噛み合いなどの偶然が重なって発生したものと想定され、予見することは困難であった。



★舗装塊の浮き上りを防ぐために

舗装塊の浮き上りの原因は特定されていませんが、舗装版切断後はなるべく速やかに舗装版撤去作業を行ってください。

遠隔操作草刈機の事故が発生！

遠隔操作草刈機に身体が挟まれる事故が発生しました。安全に作業できる遠隔操作機械も取り扱いを誤ると死傷事故に繋がりがねません。安全事項を必ず守り、事故を未然に防ぎましょう。

遠隔操作草刈機とは

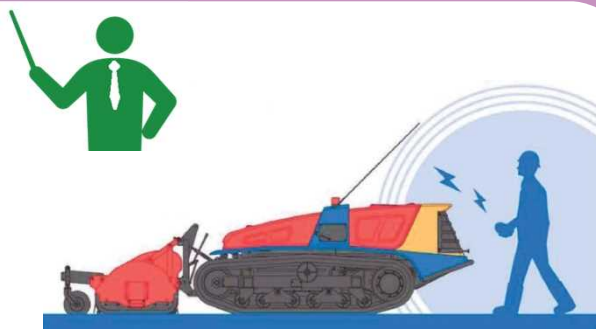
ラジコンで操作するため危険な場所でも安全に作業ができ、車高が低く低重心で車体が安定するので、急斜面でも安定した作業が可能となります。

また遠隔操作のため、長時間の作業でもオペレーターの負担が少なくなる利点もあります。

○製品主要規格

全長：439cm 全幅：204cm 全高：126cm

機械質量：2,800kg 最大法面角度：40°



CANYCOM社パンフレットから抜粋

【事故概要】

2017年10月26日堤防除草作業中に、遠隔操作草刈機のアタッチメント(集草装置)を機体に取り付け調整をしていたところ、首に掛けていた送信機が走行レバーに接触し、草刈機本体が動き出し、機体の下に身体が挟まれた。被災者は左腕の肉離れ(軽症)を負った。

【原因】

○本来は首から送信機を外し作業を行うが、今回は首に掛けたまま作業を行った。

○いつも行っているアタッチメントの脱着作業であったため、油断してしまった。

【対策】

○1人作業を止め2人作業に変更する。

○遠隔操作草刈機に、手順等の注意点を明記する。

○作業時の合図や安全確認の意思疎通を図るため、手順を確認する。



アタッチメント
ロックレバー



首に送信機を掛けたままアタッチメントの取付調節を行った。

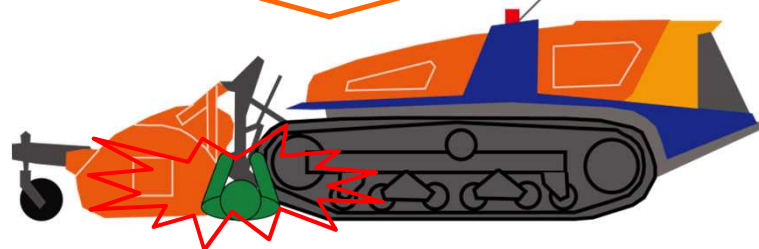


送信機

首に掛けていた送信機の車速スティックがアタッチメントロックレバーに接触し、草刈機本体が動き出し機体の下に身体が挟まれた



遠隔操作草刈機のイラストは
CANYCOM社のパンフレットを参考にして作成



★ 近年、飛石による事故、距離標・ケーブルの破損事故、除草機との接触事故など、除草時の事故が増加傾向にあります。事故防止対策を確実に実施し、事故を防止しましょう。

◇飛び石の防止

◇距離標・ケーブルの破損

◇除草機の取扱い

◇足場の悪い場所での作業



あんぜん第274号(平成29年6月号)に除草作業時の注意点を掲載していますので、参考にしてください。

場所打ち杭の鉄筋かご設置作業で事故が発生！

■場所打ち杭の鉄筋かご設置時の事故事例

【事故概要】

2017年11月1日、場所打ち杭工で、鉄筋かご組立・設置完了後、鉄筋かご吊り金具をケーシングジャッキ上に仮置きして、トレミー管の挿入作業を行っていた際に事故が発生。トレミー管挿入完了後にケーシング内で鉄筋かごが座屈して約4m下がったため、ワイヤーが繋がったまま仮置きしていた鉄筋かご吊り金具がケーシング上に引き上げられ、被災者の左足太ももと接触し、被災者がスロープ上に転倒して顔面を強打し負傷

【原因】

○鉄筋かごを着底させてからトレミー管挿入までの間に鉄筋かごを仮受けせずに施工を行った。
(杭の鉄筋は、杭長が長く杭頭部の鉄筋量が杭下部に比べて多い場合は座屈のおそれがあることから、特に注意が必要です。)

【対策】

- 「建設機械施工安全マニュアル」に基づいた(鉄筋かごの仮受けを行う)作業手順とする。
- 吊り金具は鉄筋かご仮受け後に取り外し、安全な場所に仮置きする。



- 「建設機械施工安全マニュアル」に基づいた作業手順書の計画
- 作業員全員への作業手順及び安全対策の周知
- 安全パトロールの実施を徹底し、事故を防止しましょう。

降雪・積雪・凍結による事故にご注意を！



- 降雪時には架空線が普段よりも見えにくくなります。平常時から架空線の明示をしっかりと行い、降雪・積雪時の作業に備えましょう。
- 降雪によって支障となる構造物の確認が難しくなることがあります。事前にチェックして周知しておくとともに、ポールを設置するなど注意喚起を行いましょう。
- 路面凍結によるスリップ、制動距離の延長、降雪による視界不良などにより、交通事故の発生が懸念されます。車両運転時には十分に気を付けましょう。

これから迎える年度末に向けて、さまざまな作業が輻輳し、寒さの影響で通常よりも動作が遅れがちになり、事故の発生が危惧されます。事故防止活動を強化しましょう。